44 巨大コレステリン肉芽腫の1例

宗像 良二・菊池 泰裕・渡辺善一郎
井上 秀之・伊崎 堅志・後藤 博美
伊藤 康信・小泉 仁一・後藤 恒夫
古和田正悦・渡邉 一夫
財団法人脳神経疾患研究所附属
総合南東北病院

【目的】耳鼻科領域では中耳に発生するコレステリン肉芽腫はよく知られている．今回，我々は錐体骨から伸展したと思われる，まれな頭蓋内コレステリン肉芽腫の一例を経験したので報告する．

症例は45歳の女性．5年前から軽度の頭痛と右の聴力低下を自覚していた．CTで右錐体骨を破壊し中頭蓋窩から後頭蓋窩に及ぶ約6cmのcystic mass lesionを認めた．MRIではcyst内容はT1強調画像，T2強調画像ともに高信号を示し，cyst wallはガドリニウムで増強された．開頭摘出術を行ったところcyst wallは硬膜と強く癒着しており，側頭骨と錐体骨の一部を圧迫し破壊していた．cyst内容液は茶褐色で漿液性の液体であった．病理所見ではcyst wallは多数のコレステリン結晶を含むfibrous tissueでありコレステリン肉芽腫の診断であった．

【考察】コレステリン肉芽腫は，種々の原因で発生したコレステリン結晶に対して組織反応が働き，その結果生じた肉芽が出血を繰り返して大きくなると考えられている．その好発部位は主に中耳腔であるが，錐体骨に発生し頭蓋内に進展することはまれである．

【結論】錐体骨に発生した巨大なコレステリン肉芽腫の1例を外科的に治療したので，若干の文献的考察を加えて報告する．

45 中脳に発生したgranular cell tumorの1症例

宇都宮昭裕・上之原広司・鈴木 晋介
西村 真実・沼上 佳寛・西野 晶子
鈴木 博義*・櫻井 芳明
国立仙台病院脳神経外科
同 臨床検査科病理部*

症例は18歳男性．既往歴特記なし．約1ヶ月の経過で複視，右上下肢脱力と右半身のしびれを自覚し他院を受診した．頭部MRIにて脳幹部に嚢胞性腫瘍を発見され当科へ紹介された．入院時神経学的には意識清明，左外転神経麻痺，右顔面神経麻痺，左半身しびれと左上下肢の筋力低下を認めた．MRIでは中脳の前部に小腫瘤があり，それに連続して中脳から橋上部右に拡大する嚢胞を確認できた．造影剤投与にて，中脳前部の小腫瘤は均一に造影された．脳血管造影では嚢胞による正常血管の圧迫像のみを示した．手術は，SEP，MEPとABR等のモニター下に行い，occipital-transtentorial approachにて腫瘍に到達した．嚢胞内腔を通し腫小瘤を部分摘出した．腫瘤は動眼神経に接触していた．嚢胞の開窓も十分に行った．術後，上記の神経症状は改善したが，新たに右動眼神経麻痺が出現した．組織学的に腫瘍は，大型類円形で内部に多数の微細な好酸性の顆粒を有する細胞質をもつ細胞が充実性に増殖していた．免疫染色では，S-100，tubulin，CD56が強陽性で，GFAP，chromogranin A，synaptophysin，CD68は陰性であった．以上から，脳幹に発生したgranular cell tumorと診断した．脳幹に発生した本腫瘍は稀であり，その発生や治療について文献的に考察を加えた．

46 小児眼窩内腫瘍の1例

鈴木 一郎・上之原広司・鈴木 博義*
宇都宮昭裕・鈴木 晋介・西野 晶子
西村 真実・沼上 佳寛・櫻井 芳明
国立仙台病院脳神経外科
同 臨床検査科*

症例は6歳男児．平成13年春頃からの徐々に